

横浜市教育委員会 定例会会議録

- 1 日 時 平成30年9月7日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 鯉淵教育長 大場委員 間野委員 宮内委員 中村委員 森委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

平成 30 年 9 月 7 日（金）午前 10 時 00 分

- 1 会議録の承認

- 2 一般報告・その他報告事項
平成 30 年度 横浜市教育課程研究委員会 研究協議会について
請願等報告（受理番号 72～74 教科書採択に関する要望書）

- 3 審議案件
教委第 24 号議案 学校運営協議会の設置について
教委第 25 号議案 学校運営協議会の委員の任命について

- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉淵教育長

それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。8月1日の会議録の署名者は間野委員と森委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正等を除きまして、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉淵教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、前回8月27日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小林教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の小林です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会臨時会から本日までの間についての報告事項はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 8/17～ 平成30年度 全国中学校体育大会
- 8/27 平成30年度 横浜市総合教育会議
- 8/27～31 平成30年度「横浜子ども会議」区交流会

(2) 報告事項

- 平成30年度 横浜市教育課程研究委員会研究協議会について
- 請願等の取扱いについて

3 その他

- 請願等報告（受理番号72～74 教科書採択に関する要望書）

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、前回、中学校の総合体育大会県大会について、御報告させていただきましたけれども、8月17日から中国地方各県で開催されました平成30年度全国中学校体育大会につきましても、本市の選手が大変すばらしい成績を収めております。本日は、全国第3位以上の成績を収めた生徒及び学校を報告させていただきます。

陸上、男子400m第2位、荏田南中学校3年、日高裕喜人さん。女子四種競技第1位、東野中学校3年、安井麻里花さん。水泳、男子100m自由形第1位、200m自由形第2位、港南中学校3年、荻野倭太郎さん。女子100mバタフライ第1位、200mバタフライ第2位、あざみ野中学校2年、三井愛梨さん。体操、男子個人戦種目別ゆか第1位、矢向中学校3年、築山翔馬さん。ソフトテニス、男子個人戦第3位、領家中学校3年、菅野晃太郎さん。同じく3年、工藤陽光也さん。剣道、男子団体戦準優勝、潮田中学校。

全国中学校体育大会の報告につきましては、以上となります。

8月27日には、平成30年度横浜市総合教育会議が、林市長の主宰によりワークピア横浜で開催されました。教育長、教育委員が出席し、新たな横浜市教育大綱について協議しました。また、いじめ重大事態に関する再発防止策の進捗状況について、事務局より報告をしました。

なお、総合教育会議での協議を踏まえて、9月4日に新たな横浜市教育大綱が策定・公表されています。

8月27日から31日までの間、平成30年度「横浜子ども会議」区交流会が18区・全区で開催されました。8月28日には、鶴見区に森委員、南区に鯉淵教育長が、8月30日には、中区に大場委員、中村委員が、8月31日には、緑区に中村委員が出席しております。

次に、報告事項として、この後所管課から1点、事務局から1点報告させていただきます。まず、所管課から平成30年度横浜市教育課程研究委員会研究協議会について、次に、事務局から請願等の取扱いについて、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉淵教育長

報告が終了いたしました。御質問等がございますか。どうぞ。

間野委員

全国中学校体育大会で3位以上に入賞したということは素晴らしいことであると思う一方で、今横浜市でも部活改革を検討している中で、本当にこういう大会に参加させる必要があるのか、横浜の子供にとってメリットがあるのかどうかということの本気で検討する時代になってきているのではないのでしょうか。例えば、陸上、水泳、体操、ソフトテニス、剣道とありますが、恐らく水泳選手は学校のプールで泳いでいないと思います。スイミングクラブでやっていて学校の名前で出場しているだけで、体操もそういう可能性があると思います。

要は、全国中学校体育大会と言いつつも、かなり形骸化している競技とか種目というものが出てきているのではないのかということです。それから、ここに出るために子供は年間どれだけの時間を使って練習しているのか。多分600時間とか、700時間とか。教科で言うと、国語が一番多くても140時間ぐらいですよね。その何倍もの時間をここに使うということが、本当に中学生年代の発育・発達にとってふさわしいことなのかどうか。ここに出た人はいいですけども、ここまで出ていない、名前も出られていないのに同じぐらいの時間を使って、例えば私は中学校のときに野球をやっていましたが、1回戦で負けるとおしまいです。半分が1回戦で終わるわけです。こういうことは本当に教育的な、要はグッドルーザーで負けて学ぶこともあるかもしれませんが、こういう大会に出場するために市大会をやって県大会をやって関東大会をやっていくという方式が本当に横浜の子供のために適切なのでしょうか。

また、それに伴った結果として、教員の労働時間・残業時間なども増えているわけです。ここは本当に部活改革ということを考えて場合に、週休日をつくるのかだけではなくて、中体連主催ではありますが、こういう競技大会に我々は何もできないのだとすると、参加するかどうかとか、そういうことも本気で考える時代なのではないのでしょうか。甲子園、高校野球。横浜市立の9校全部に野球部があるわけではありませんが、常に美談化されていますけれども、4,000校のうち1回戦で半分の2,000校が負けます。次で4分の1になっていくというような、こういうやり方は多分世界で極めてまれです。アメリカでさえ、アメリカは広くて時差もある国ですから、中学生年代の全国大会なんて簡単にできないと言えそうなのですが。

そういうことも含めて、部活改革は教員の働き方改革から始まっていますけれども、中学生の子供の時間の使い方です。少子化といったことを考えた場合に、やはりいろいろな才能をどうやって分散化させて開花させていくかと考えなければいけないのに、人気で子供がやりたいからということだけでやみくもに特定の競技をやらせるようなやり方が本当にいいのかどうなのか。アメリカは日本の人口の3倍いますが、トライアル制を敷いて、中学生では部活の人数を制限しています。やはり適材適所で、それぞれ向き・不向きがあるという考え方です。スポーツでなくてもいいと思います。文化・芸術でもいいですし、読書でも何でもいいですが、子供がやりたいからということで、例えば甲子園のスタンドで何十人も高校生が応援しているのを見ると、僕はとても切なくなります。彼らはほかのことをやったらもっと才能があったかもしれないのに、なぜああいうことを正当化しているのだろうかということです。

そこまでいなくても、横浜は横浜で28万人の児童生徒がいて、中学校も150校あるわけですから、それだけあったらそこだけで十分新しい仕組みが作れる時代なのではないかと思っています。

意見です。以上です。

大場委員

間野先生は専門のお立場から今お話をいただいて、私も実は感じています。と言いながら、自分自身は家で横になって高校野球、甲子園の野球を冷房の中で見ていたので言える資格はありませんが、結局テレビの画面でも熱中症注意と警告を出しながら高校野球をああやって昼間に放送しています。いろいろな人が若干意見を言い出した気配はありますが、どこかの新聞に女性作家の方が「甲子園の高校野球といっても、しょせんクラブ活動の延長ではないか。何であそこまで精神主義の象徴的なことで甲子園を神格化してしまうんだ」と書かれていました。「しょせん」という言葉がいいかどうかはわかりませんが、そのような見方もあるのだなと私も感じました。

ですから、極端に言えば、横浜市でどうこうはできないかもしれませんが、横浜市の学校は甲子園を目指さないで、例えば神奈川県代表どまりで、あとはそれ以上やらないということが、高野連との関係で簡単にできることではありませんけれども、クラブ活動の延長線だということで、少し大人としての冷静さを我々も持たなければいけないのではないかと感じました。

それと、この前の総合教育会議で私も学校施設の冷房化の促進をお願いしておいたのですが、たまたま昨日は北海道、おとといは関西であのような災害がありました。実は今、私は社会福祉協議会の仕事もさせていただいている中で、7月に西日本の豪雨で広島県や岡山県が大きな被害を受けて、ボランティアを求める人とボランティアをしたいという人のマッチングをしようということで、これは全国社会福祉協議会がこの役割を担って、今広島県と岡山県の幾つかの市町村で災害ボランティアセンターを運営しています。ただ、当事者の社協は日常業務も何もできない中で手いっぱいな状態で、当然社協の職員も被災者になっているケースもありますので、全国の応援態勢をやろうということで、全社協が呼びかけをしました。

横浜は7月下旬から三原市に1週間交代で社協の職員が行って、災害ボランティアセンターでニーズの受付やボランティアを希望する人の現地調整など、そういうことをやっていて、9月いっぱいまで続く予定です。この前、行ってきた職員から報告をもらって、やはり避難所になっているところにクーラーがあって、本当にこれは避難者の人たちも助かったという話を聞きます。それから、ボランティアの人たちも朝にどっと送迎バスで避難所へ来てレクチャーを受けるの

ですが、やはり表でやるのはつらいので、避難所の一角で避難者に支障のない範囲で説明を受けたそうで、クーラーのある体育館というのは非常にありがたく感じたということです。

普通教室は終わって、今は特別教室の準備をさせていただいているわけですが、学校の体育館も視野に入れなければいけません、相当の経費がかかるという問題があると思います。考えてみると、学校の立場でも欲しいかもしれませんが、横浜で大きい災害が起きることは想定しなければいけないと思うので、その上ではやはり市民の皆さん、避難者の避難場所の環境を改善するというのであれば、教育委員会だけの仕事ではなくて、むしろオール横浜市で取り組むべき話です。せこいことを言えば、教育委員会の予算でどうこうということではなくて、市の災害対策の予算という中で避難所になっている学校施設の冷房化には本当に真剣になって取り組んでいただくことをふと考えました。総合教育会議は終わりましたが、このような場で表明だけさせていただいて、お伝えしたいと思いました。

以上です。

宮内委員

横浜市としてスポーツを振興していくこと、また小学校、中学校、非常に体育祭等々が盛んであることはいいことですが、私はスポーツは楽しく遊び、長くやるということが大事だと思っています。その観点から、多様性をもう少し追求していくべきと考えます。甲子園的な精神論は、私は好きであり、見て涙を流しますが、同様にもっと長く楽しむということに力点を置いた仕組みをつくるべきと考えています。それはトーナメント方式と併せてリーグ戦方式をもっと取り入れていったらいいのではないかと考えています。トーナメント方式というのは一騎打ちであり、勝ったほうは生き残る、負けたほうは剣刀槍であれば死んでしまいます。そうやって勝ち上っていくわけですが、スポーツというのはあくまでも楽しむためにやるものです。そうしますと、負けた人もまた敗者復活戦がある、そういうことを工夫しているのがリーグ戦であり、また1部制、2部制、3部制とか、グレードに応じて楽しむという楽しみ方があると思います。ということで、スポーツエリートだけの場ではなく、どうやって多くの人を楽しませるか、児童生徒がともに楽しむことが本来の目的ですので、ぜひリーグ戦等々にシフトしていくというのを横浜が全国に先駆けてやるということも工夫ではないかと思っております。

鯉淵教育長

ほかに御意見はありますか。

森委員

スポーツに限らず、横並びで1つのことをみんなが同じように目指すということは、やはり限界が来ているのではないかと思います。学校の部活ごとに何を指したいのか、恐らくメンバー構成や先生によってかなり違いがあるものだと思いますし、その自由度が許されるものであってほしいと思います。ですから、体力をつけていくとか、楽しむということを大事にしていこうということもあっていいでしょうし、リーグ戦を目指していこうということもあっていいと思いますので、もう少し自由度と、必ずそこを目指さなければいけないと助長しないような仕組みでありたいと思います。

昨日、文部科学省から置き勉強ですか、教科書を置いていくことについて方針があったかと思っています。これから横浜もそれをどのようにしていくかということを考えるタイミングかとも思います。子供たちの目線から見ると、一日でも早くそのように置いていける体制を学校として整えていくことも大事だと思っています

が、先ほど横浜でこういうことを考えてもいいのではないかという話が間野先生を初め皆さんからありました。こういうことは本当にもっと現場から「置いていてもいいんじゃない？」という声が出てよかったのではないかと、それをもっと横浜で推進していこうということをやってもよかったのではないかと思うので、今当たり前のようにやっていることでおかしいのではないかと、もっと子供目線で考え直してもいいのではないかということはこの場でもどんどん出して、拘泥せずに考えられたらと思います。置き勉もゼロか100ではなくて、いろいろなパターンでの進め方があると思いますが、なるべく早く進めていけるように皆さんと考えられたらと思います。

以上です。

鯉淵教育長

ほかにございますか。

中村委員

何年も前の新聞になるかと思いますが、他都市で部活動の中で極めたい生徒たちと、それから楽しみたい生徒たちが共存してやっているというような記事を見たことがあります。そのときに指導体制はどうしているのだろうということが気になりました。これだけいろいろなスポーツがクラブ化してくる前は、部活動が担っていた部分が非常に大きくて、それがそのまま延長されているような部分もあるのですが、働き方改革も含めて、指導体制をどうしていくかということと同時に、社会体育的な部分での受け皿も増やしていかないと、なかなか厳しいところもあるのではないかと思います。

それから、置き勉のことについて先ほども何人かの方と話していたのですが、文部科学省の指示があるからやるとかやらないということではなく、やはり目の前にいる子供たちのことを考えたときにどうしたらいいかということを考えて、現実に置いていっていい物を各学校で判断してやっているわけです。ですから、全て持ち帰っているわけではないのですが、それと同時に、テレビで見た学校はきちんと教科書を置く棚と下に物を入れるロッカーというようなものがあったりして、狭いところに何でも押し込めるようなところに置いていっていいよとするのかどうかということも絡むので、置いていっていいよと言いながら、またそういう環境を整えていくことも必要なのではないかと思います。

以上です。

鯉淵教育長

いろいろとなかなか横浜市だけで意思決定しにくいことも含めて出ておりますが、検討課題ということで受けとめさせていただきますので、よろしく願いいたします。

中村委員

別件でいいですか。

鯉淵教育長

はい、どうぞ。

中村委員

すみません。横浜子ども会議のことですが、中区と緑区に出席させていただきました。誰にとっても居心地のよい学校をどうつくったらいいだろうということ、かなり具体的な話がされていました。本当に横浜子ども会議だからといって、イベント的にその日だけやるということではなく、まず各クラスで話し合い、それを学校の中で持ち寄って話し合い、そしてそれを横浜型小中ブロックの中で話し合っ、それを子ども会議で話し合うというような、何段階も丁寧に段階を踏んで子ども会議に出てきているなという印象を受けました。

また、それで終わりではなく、子供たちがまた各学校に持ち帰ったり、もう既に次回の小中ブロックで話し合う日程も決まっているところもありまして、昨年度のことを踏まえながら今年は話し合い、また話し合ったことを来年度につなげていくということで、体制的にも話し合う中身的にもいい意味でつながってきているのではないかと思います。

その中で、今の子供たちは本当に私たちの頃と違って発表が上手になったなど思ったのですが、なかなか工夫して宣誓の形で発表したり、小中で分担して発表したりということで、印象に残るような発表がたくさんありました。その中である児童が言っていたのですが、「誰にとっても」の「誰にとって」というのはとても難しいことだから、ここでたくさん話し合ったけれども、難しいからこそ私たちは努力し続けなければいけないということを言っていて、その言葉がとても印象に残りました。

また、小中学生でワールドカフェ方式で自由に分散してやるというのができるのかなど少し心配しながら見ていたのですが、非常にグループごとの話し合いが活発で、また付箋を活用してそれぞれの意見を相手にきちんと伝えるというようなことができていました。話し合い時間は短かったのですが、十分に思いは伝わったのではないかと思います。それから、その場でやりとりをして、今新しく思ったんですけどなんていうやりとりもあって、よかったですと思いました。ただ、子供たちも学校に持ち帰って伝えなければという思いが強くて、必死に書いていました。ですから、各学校にタブレットがせっかく配付されているので、もう少しそういうものを利用して資料を取り込んでいくようになると、必死に書かなくてももう少し話し合いのほうに耳を傾けられるのではないかと思います。

以上です。

森委員

私も鶴見のほうに参加してきたのですが、参加する前に前回のこちらの委員会でもきちんと終わった後も続くようにと偉そうにお話をさせていただいたのが恥ずかしくなるぐらい、皆さんが学校で考えて発表されていたことに大変感激いたしました。発表の中には自己肯定感というのがすごく大事なのではないかなというような大人顔負けのいろいろな意見ですとか、ただ正しさだけではなくて楽しさを大事にするということを発言されている方がいらして、ただ挨拶をしましょうではなくて、ハイタッチしながら挨拶をするとか、そうやって楽しいことを入れていくことが大事だということを言っている子供たちもいました。それがとても勉強になりましたということで、ほかの班の人たちも発言されていて、これは大人が学ばなければいけないなというような発言もあり、私自身も勉強になりました。

中でも、これはなかなか面白いなと思ったのは、高校生、中学生、小学生と混ざって場が持たれたわけですが、高校生がいかに読み原稿を読むだけではなくて伝わるように発表するかというコツを教えていたり、各グループでは中学生が小学生に伝え方や押さえどころなどを各グループで伝えながら進めていまして、縦でこうやって子供たち同士で教え合っていくというのがこの場で育まれているのだなということも確認ができて、うれしく思いました。

あとは、今は代表者だけがこうやって集まってきて、そういった場が持たれていますので、学校へどのように皆さんが持ち帰って、紹介ですとか、一人ひとりの実際の現場で本当に居心地よくなるということまで持っていけるかということ、各学校でどのような変化が起きるかを楽しみに見ていきたいと思いました。

以上です。

鯉淵教育長	<p>よろしいでしょうか。それでは、ほかに御質問がなければ、平成30年度横浜市教育課程研究委員会研究協議会について、所管課から御報告いたします。</p>
直井指導部長	<p>指導部長の直井でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、本年度横浜市教育課程研究委員会研究協議会について報告をさせていただきます。お手元の資料を御覧ください。この協議会は、市立学校の教育課程の編成、実施、評価、改善を促進し、学習指導の充実を図るために毎年開催しております。本年度も8月17日に総則部会、20日に特別支援学校専門部会、21日・22日の両日に各教科等、個別支援学級・通級指導教室等の専門部会に分かれて開催し、保土ヶ谷公会堂を初め、各区の公会堂や学校を会場として研究発表や協議が活発に行われました。高等学校につきましても20日に戸塚高等学校において開催いたしました。</p> <p>内容につきましては、教育課程推進室長より説明させていただきます。</p>
松原教育課程推進室長	<p>教育課程推進室長の松原でございます。</p> <p>本年度も昨年度から引き続きの研究テーマでございます「未来を拓く横浜の教育～社会に開かれた横浜らしい教育課程の創造～」というテーマに基づきまして、研究を進めてまいりました。</p> <p>資料の表面の下にございます参加者数一覧を御覧ください。これらの部会では市教委が主催して年間を通じて行っている研究の成果を、例年夏に協議会を開催して発信しているものでございます。小、中、義務教育、特別支援学校の協議会の内容については後ほど説明させていただきます。</p> <p>まず、高等学校についてですが、高等学校も一覧表の下にありますように、8月20日に協議会を開催し、午前中の全体会ではカリキュラム・マネジメントと消費者教育について、2本の講演を行いました。午後は総則、各教科等、特別活動、総合的な学習の時間の分科会ごとに研究協議が行われました。今年度の参加人数は、一覧表の下の合計にございますように、延べ9,273名の参加、提案に携わった委員数は259名となっております。会場の関係で、総則部会は管理職と教職員の2名、専門部会は教職員1名の参加となっておりますが、各学校で内容の共有が図られるよう、全ての部会での概要版を配付したり、教育課程推進室のウェブページに提案資料の全てと、協議会で使用したプレゼンテーション資料をアップしたりして周知を図っているところでございます。</p> <p>資料の裏面を御覧ください。一番上の組織図にございますように、横浜市教育課程研究委員会は、総則部会と16の専門部会とが連携して、各学校の教育活動の質の向上を図るための研究を重ねています。全体にかかわる総則部会では、主に学校経営を視点としたカリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究を行っております。また、専門部会では、各教科等や特別支援教育の視点から児童生徒の資質・能力の育成を目指す授業改善の在り方に関する研究を行っております。どちらの部会も専門性を持った校長や教諭が委員となり、大学教授等専門の外部委員にも加わっていただきながら、よりよい学校づくり、授業づくりを目指して研究を進めてまいりました。その研究の成果を発信するのが8月の研究協議会となっております。</p> <p>学校全体を対象として研究を進める総則部会が提案した内容は、資料の真ん中あたりにおありでございます。新しい学習指導要領の理念を踏まえ、本市においては「横浜教育ビジョン2030」が示す「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を育てるために、「知」「徳」「体」「公」「開」で示されるような未来社会を生きる資質・能力を育んでいくことが重視されてまいります。ま</p>

た、学校が主体性を発揮し、学校や地域の実態を踏まえた特色ある教育活動を進めていくことも大切になってまいります。そのため、総則部会では学校やブロック全体で育成を目指す資質・能力や、地域や学校の特色といったことをキーワードにした提案を行ってまいりました。

参会者からは、自分の学校経営を見直すよい視点になった、取り組むべき方向が具体的に見えてきてよかったといった感想をいただいております。右側の写真は、提案の視点を踏まえたブロック討議の様子でございます。この時間は参会者からも大変好評でございまして、提案を聞いてすぐにフィードバックできるので、ブロックとしての今後の取組がはっきりしたといった感想をいただいております。

次に、専門部会の提案についてでございます。今年は専門部会でも総則部会とのつながりを明確にするため、学校やブロックで教科等横断的に育成を目指す資質・能力を意識した提案を行いました。協議会で配られました「横浜市立学校 カリキュラム・マネジメント要領 教科等編」に基づき、小中9年間で育成を目指す各教科等の資質・能力を具体的な授業実践と重ねて提案することができました。資料にございますのはほんの一例ですが、全ての専門部会で活発な意見交換が行われ、新学習指導要領の下での学習指導の在り方について理解を深めるとともに、さらなる授業改善をしていこうという教職員一人ひとりの意欲が高まった研究協議会となりました。

各学校ではこの研究協議会の発信内容を共有し、学校経営や授業実践に生かすようにしております。本年度はこれらの内容を共有する場を小中一貫教育推進ブロック単位で設定したところが増え、9年間を見据えたカリキュラム・マネジメントが進んできていると考えられます。教育委員会事務局といたしましても「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」の周知や情報発信にさらに積極的に取り組み、支援をしてまいりたいと思っております。

なお、説明させていただいた各協議会の資料につきましては、後日教育委員の皆様にお渡しいたします。

報告は以上でございます。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御質問等はございますか。

中村委員

ありがとうございました。総則部会と教科等で理科に出席させていただきました。カリキュラム・マネジメントというと、一昔前は、それは管理職が考えればいいでしょうという感じだったと思いますが、今はそうではなく、日々の授業の中にもカリキュラム・マネジメントがあるということで、一人ひとりの教職員が考えていかなければならないことだと思っております。

今、これだけ10年未満の方が半分を占めるような横浜市の職員構成の中で、カリキュラムを作成していくということがなかなか難しいのではないかと危惧しておりました。昨年度提案されたときに、どこまでこれが伝わっていくのだろうと心配していた面もありました。ですが、今年総則部会に参加させていただきまして、指導主事の方や現場の校長先生を初めとする教育課程委員の方が、例えばそこにも書いてあるのですが、自分の学校の特色を考えたときに人材育成という切り口から考えていけばいいですよとか、あるいは研究から取り組んでいくことも可能ですよというように、視点を多くしてこのように取り組んでいくと横浜市で提案された資料が活用できますよというように、非常に具体的に提案されていきましたので、各学校の先生方も非常にすんと胸に落ちるところがあったのではないかと思います。小中ブロックの話し合いが本当にもう少し時間があつたらいい

いのと思うぐらい皆さんが盛り上がっていて、やめてくださいと言ってもなかなかやまなくて、これは本当に自ら学ぶ姿だと思って楽しかったです。

そのようなことをきっかけにして、先ほどの子ども会議だけではなく、教職員の中での小中ブロック連携ということが非常に進んでいて、このカリキュラム作成の中でも当たり前のように小中連携してやっていたり、多分高校を巻き込んでいるところもあると思いますが、そのような姿が見られてよかったですと思いました。

以上です。ありがとうございました。

鯉渕教育長

ほかに何か御質問・御意見はございますか。

それでは、特に御質問がなければ、次に請願等報告として8月1日に受け付け、各委員に配付しております「教科書採択に関する要望書」について、事務局から説明いたします。

山岸総務課長

それでは、事務局から説明させていただきます。

お手元の請願書を御覧ください。受理番号72、73、74につきましては、横浜市教育委員会が既に採択をいたしました横浜市立学校使用教科書に関する請願及び陳情でございます。したがって、教育長に委任する事務等に関する規則に基づきまして、教育長専決事項として回答させていただきます。

以上でございます。よろしく願いいたします。

鯉渕教育長

ただいま事務局から説明のありました受理番号72～74の要望書の取扱いについて、何か御意見等はございますか。

特になければ、報告のとおり対応させていただきます。

次に議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第25号議案「学校運営協議会の委員の任命について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第25号議案は、非公開といたします。

議事日程に従い、教委第24号議案「学校運営協議会の設置について」、所管課から説明いたします。

直井指導部長

指導部長の直井でございます。教委第24号議案「学校運営協議会の設置について」でございます。

1枚おめくりいただきまして、提案理由です。横浜市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則第3条の規定に基づき、六角橋中学校等4校（1協議会）に学校運営協議会を設置したいとの提案でございます。

詳細につきましては担当課長より説明させていただきます。

横山指導企画課小中一貫校推進・情報教育担当課長

指導企画課担当課長の横山でございます。それでは、引き続き御説明申し上げます。

資料の次のページを御覧ください。

1番、今回の対象校でございますが、4校でございます。この4校によりまして、設置校は累計184校となります。今回は合同での設置となりますので、協議会

としては1協議会になります。同じく累計149協議会となります。設置ですが、六角橋中学校ブロックの六角橋中学校並びに神橋小学校、神大寺小学校、中丸小学校、以上4校が対象となります。

学校運営協議会の設置ですが、平成30年10月1日を予定しております。

参考としまして、現在の学校運営協議会設置校の状況でございますが、繰り返しのようになります。180校に設置してございまして、148協議会です。内訳は小学校が127、中学校が48、義務教育学校が2、特別支援学校が1、高校が2という形になっております。うち、今回のような合同設置は20ブロックございます。

おめくりいただきまして、資料の先のほうを御覧ください。今回の設置校についての概要でございます。1ブロックですので、1つの表にまとめられております。資料の先を御覧ください。「学校運営協議会（30.10.1設置校）」でございます。

六角橋中学校ブロックは東部学校教育事務所のエリアで、神奈川区でございます。近隣校の設置状況ということで、今回は六角橋中学校と、エリア内の神橋小学校、神大寺小学校、中丸小学校が合同で1協議会を設置いたします。同じ中学校ブロックの中で斎藤分小学校がございまして、こちらにつきましては、今回は合同協議会には入っておりません。当該学校は一部生徒が別の中学校に進学しているということで、状況が少し異なっておりますことから、このような形となっております。

各学校の基本情報につきましては、次の欄を後ほど御参照いただければと思います。

本運営協議会の設置の主なねらいでございますが、学校運営の改善、児童生徒の健全育成、地域との連携・協働、学校教育活動の改善、以上4点ということで、設置校のほうから申請が出ております。

委員の構成は、全体で19名という形で委員の推薦が出ております。内訳ですが、地域住民が6名、保護者が4名、学校に資する活動をする者が2名、学識経験者が3名、当該学校の学校長が計4名、以上19名となっております。

内容につきましては以上となります。よろしく御審議をお願いいたします。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、御意見・御質問等はございますか。

森委員

うまくイメージできていないかもしれないのですが、「設置の主なねらい」に「学校運営改善」とございまして、「授業参観や学校評価分析をすることで、学校の運営改善を図る」とあるのですけれども、今までに具体的に意見が出て、運営改善をしたという例があったのでしょうか。イメージが湧かないので、そういった具体的なことは例えばどのようなことでしょうか。

直井指導部長

通常の授業参観は保護者の方に見ていただくということが今まで行われてきていると思うのですが、ここに様々な、もう少し経験をされたシニアといいますか、地域の代表の方だったり、中には大学の先生や専門的に教育を研究されている方に学識経験者として学校運営協議会に入っていたりもしていますので、そういう専門家の目でありますとか、保護者、子供と教員という今までの授業参観から、様々な違う立場の方に見ていただいて、角度の違う御意見などもいただくことができるようになってきていると思います。

特に今の教育と昔との比較によって、昔はこうだったけれども今はこうなっているねということで新たに自分たちで気づくことができたり、昔はこういう部分があったからよかったのではないかというような、過去と今ということもあ

すし、学識経験者の方に御意見を伺うと、様々な専門的な指導法でありますとか、教材の捉え方であるとか、そういうような御意見をいただくことができたりします。それに基づいて授業改善をしたり、ほかの教科と一緒にやるといった全体的な学校運営の改善になったりするということの方が新たな授業参観の視点になっているのではないかと思います。

すみません、具体的でしたでしょうか。

森委員

学校はいろいろな人が参加して、いろいろな角度から見るという大事な場だと思っておりますので、しっかりと機能させて、多角的な目が本当に入って行く場であってほしいと思います。またさらに今後の中でもお話を伺っていただけると幸いです。ありがとうございます。

宮内委員

森さんと同じ意見です。学校社会とか病院とか、どんな組織もそれぞれの個性があり、専門性を追求するとその個性が出ます。でも、時にはその個性的なものが社会通念上ユニーク過ぎるといった現象が見られます。そのため、学校社会なり、警察なり、いろいろな組織に外部の意見を取り入れる仕組みができています。その外部の意見を取り入れるとき、外部の人たちの人選というのは結構大事ではないかと思います。教育関係者や自治会の役員といったパターン化されているような気がいたします。そこで、できるだけ幅広い人たちを集める工夫をなさったらいいのではないかと思います。いや、工夫をなさるといわずに、工夫を促すように僕らとしてはサジェスチョンしていったらよろしいのではないかと考えています。

あるとき運動のユニホームを着なければだめだという学校がありました。転校した人は色がついたトレーナーを着ていました。それはルールに合わないから脱ぎなさいと言われて風邪を引いたということがありましたが、PTA等々では言いにくいと。また、水筒を持ってくるのはいいけれども、ペットボトルやスポーツドリンクは持ってきてはいけないと。学校によっていろいろとユニークなルールがあるらしいです。そういったものに対して、ちょっと変じゃないの？と言えるような雰囲気はどうやってつくるかということが学校運営協議会を機能させるために行政としてやらなければいけないことではないかと思います。私は公募制度もいいのではないかと考えておりますが、地域によって必要な第三者の意見というのは多分あると思いますので、ぜひいろいろな工夫をしていきたいと思っております。

以上でございます。いかがでございますか。

直井指導部長

様々な御意見を頂戴する中で学校経営を見直していったりということは本当に必要なことだと思っております。先ほども申し上げたように、割と今まではメンバーが固定していて、子供と保護者と学校という形だったものが、地域の方など、様々な角度で御意見をいただく中で、より良くなっていく、少し面白いものが、ユニークという言い方をさせていただきましたが、是正されていくということは望ましいことだと思っております。

メンバーの構成につきましては、例示もさせていただいておりますが、今公募という御提案もいただいているところですが、未設置校に対する研修であるとか、設置校の合同研修もごさいます。そういう研修の中で、学校の様々な特色を生かしながら学校が進めていくということは大事にしたいと考えていますので、いろいろな方に入っていただくことで特色がより出ていくのではないかと思います。というような投げかけといたしますか、そういう形はぜひ進めていきたいと思っております。

ます。

鯉渕教育長

ほかに何かございますか。
特になければ、教委第24号議案につきましては、原案のとおり承認するという
ことよろしいですか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、原案のとおり承認させていただきます。
以上で公開案件の審議が終了いたしました。
事務局から、報告をお願いいたします。

山岸総務課長

事務局から日程について報告いたします。
次回の教育委員会臨時会は、9月18日火曜日の午前10時から開催する予定で
ございます。また、次回の教育委員会定例会は、10月19日金曜日の午前10時から開
催する予定でございます。
以上です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は9月18日火曜日の午前
10時から開催する予定です。
また、次回の教育委員会定例会は10月19日金曜日の午前10時から開催する予定
です。別途、通知いたしますので御確認ください。
次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。
また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第25号議案「学校運営協議会の委員の任命について
(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたしま
す。

[閉会時刻：午前11時11分]